

冬季でも開花が遅れず計画的な出荷が可能なスプレーギク新品种

「スプレーアイチ秋2号」を開発

農業総合試験場

愛知県のスプレーギク生産量は全国第1位で、その主な産地は田原市、豊川市です。キクは、通常秋に開花しますが、品種改良と栽培技術の開発により、一年中開花させ、出荷しています。品種は、主に7月から9月にかけて出荷する夏秋系品種と、10月から6月にかけて出荷する秋系品種があります。

今回、白色の秋系品種「スプレーアイチ秋2号」を開発したので紹介します。

1 「スプレーアイチ秋2号」開発の経緯

スプレーギク栽培では、冬季にハウス内を温風暖房機などで加温し、出荷規格に適合した切り花の計画的な出荷を実現しています。しかし、近年は燃油の高騰が続いており、暖房にかかるコストの増加が、農家経営を圧迫しています。そのため生産者からは、暖房の設定温度を下げても出荷規格どおりの切り花長が確保でき、開花が遅れないといった特性を持つ新品种が求められていました。

愛知県農業総合試験場東三河農業研究所では、これまでに、草姿、花形が良い「スプレーアイチ秋1号」（ピンク色）を育成しました。しかし、最も需要のある白色の品種の育成には至っていませんでした。そこで、寒い時期でも品質が高く生産者の要望に応える白色の秋系品種の育成に取り組みました。



「スプレーアイチ秋2号」

2 「スプレーアイチ秋2号」の特徴

「スプレーアイチ秋2号」は、寒さによる生育及び開花の遅れや障害の発生が少ない品種です。そのため、厳寒期を含む10月から6月の長期間に渡って、品質の高い切り花を安定して出荷できます。また、開花揃いが良いことから、計画的な生産及び出荷が可能です。さらに、生産者にとっては茎の下部から伸びてくる側枝の数が少なく、収穫や調整がしやすいため、出荷作業の労力が軽減できるというメリットがあります。花弁は純白で、濃緑の葉とのコントラストが鮮やかな美しい花です。鑑賞期間は、従来の秋系スプレーギク品種と同等であり、2週間から3週間程度楽しむことができます。これらの優れた性質を備えた本品種は、冬に出荷する白色スプレーギクの主力品種として普及が期待されます。